

J-PARCハドロン実験施設における
放射性物質漏えい事故検証に係る有識者会議

答申書（案）

平成25年x月y日

平成 25 年 5 月 23 日 11 時 55 分頃に発生した 50 GeV シンクロトロン の ビーム 取り出し電磁石の誤作動により、設計想定をはるかに超えた瞬間強度のビームがハドロン実験ホールに設置された金標的を損傷し、飛散した放射性物質が設計外現象と事実誤認を経て施設外に漏えいした。

今回の放射性物質漏えい事故への対応の問題点として、1) 放射性物質を施設外及び周辺環境に漏えいさせたこと、2) 国・自治体等の関係機関への通報連絡が遅れ、地元をはじめ国民への公表が遅れたこと、3) ハドロン実験ホール内で作業者が放射性物質を吸入し内部被ばくしたこと、が指摘できる。本会議は、両機構の長からの以下の諮問を受けて、答申をするものである。

[諮問事項]

- (1) J-PARC センターの安全管理体制及び緊急時に実施すべき手順等の再確認
- (2) J-PARC センターで進める当該事故対策計画の妥当性に係る評価

1. 答申

作業部会からの報告を受けて審議した結果、本会議は両機構の長に次のとおり答申する。

- (1) 安全管理体制および緊急時に実施すべき手順

(答申 の内容)

- (2) 事故対策計画の妥当性に係る評価

(答申 の内容)

2. 提言

本会議は、上記答申に加えていくつかの観点について議論し評価を行なった。

J-PARC は、大強度の陽子ビームを用いた最先端の科学技術研究の成果をあげるといふミッションを掲げて建設された研究施設である。その加速器と実験施設は、国外からのユーザを含む多数の研究者に研究の機会を提供する責務を負っている。

J-PARCが目指す科学技術の高邁な夢の実現は東海村をはじめ地元の理解があつて初めてできること、地元の方々の安心がJ-PARCの理念を支えるということ、片時も忘れてはならない。また、地元の理解を得るためには、理性だけでなく感情にも訴えるよう努力していただきたい。

さらに、ユーザと職員の安全は、実験の価値や能率に優先するという共通認識を確立することが肝要である。

これらのことを踏まえて、本会議は両機構の長に次のとおり提言する。

(提言 の内容)

3. まとめ

(まとめ の内容)

別添 有識者会議の概要

(1) 会議設置の経緯

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構（以下「KEK」という。）と独立行政法人日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という）は、大強度陽子加速器施設 J-PARC において発生した放射線物質の漏えい事案及び当該事案に関する関係機関への報告の遅れなどについて、平成 25 年 5 月 28 日付けで文部科学大臣より、放射線物質を取り扱う施設の安全管理を行う者の安全に対する意識の低さや安全管理体制の不備が招いたものであるとの指摘をうけた。

文部科学大臣は同時に、今後、二度と同じ過ちを繰り返さないようにするために、必要な措置を講じ、講じた措置の内容を速やかに報告するよう求めている。特に今回の事案の対象である J-PARC については、安全管理体制及び緊急時に実施すべき手順等の再確認を行い、確認作業に当たっては、第三者による有識者委員会を設置し、意見を聞くことを要請している。

KEK と JAEA は、この要請に基づき、第三者による「J-PARC ハドロン実験施設における放射性物質漏えい事故検証に係る有識者会議」（以下「有識者会議」という。）を設置することとした。

(2) 会議の目的と構成

有識者会議の目的は、KEK と JAEA の諮問を受け、安全管理体制及び緊急時に実施すべき手順等を検証し、J-PARC センターで進める当該事故対策計画の妥当性を客観的に評価し、両機関に助言することである。

有識者会議メンバーは以下の通りである。

- 委員長 矢野 安重（公益財団法人仁科記念財団常務理事、加速器科学）
- 委員 内村 直之（フリーランスジャーナリスト、科学全般）
- 委員 佐藤 幸也（東海村役場総合政策部長、地方自治体）
- 委員 高野 研一（慶應義塾大学教授、安全、人間工学）
- 委員 中野 貴志（大阪大学核物理研究センター長、実験施設運営）
- 委員 永原 裕子（東京大学大学院理学系研究科教授、自然科学）

(3) 検討期間

有識者会議は平成 25 年 6 月 18 日に設置され、会議を以下のように開催し審議を行

った。なお、会議は第2回より公開とした。

第1回有識者会議 平成25年6月21日（金）

高エネルギー加速器研究機構東海キャンパス（茨城県東海村）

第2回有識者会議 平成25年7月5日（金）

KKR ホテル東京（東京都千代田区）

第3回有識者会議 平成25年7月20日（土）

KKR ホテル東京（東京都千代田区）

第4回有識者会議 平成25年7月29日（月）

KKR ホテル東京（東京都千代田区）

…

（4）検討方法

有識者会議は、安全管理体制及び緊急時に実施すべき手順等についての検討と対策計画の評価作業を効率的に進めるために、作業部会を設置した。また、有識者会議及び作業部会の作業のための事務局を設置した。作業部会は加速器施設に関して専門性の高い外部の有識者で構成した。メンバーは以下の通りである。

部会長 井上 信（京都大学名誉教授、加速器施設運営）

委員 熊谷 教孝（公益財団法人高輝度光科学研究センター専務理事、加速器）

委員 戸崎 充男（京都大学環境安全保健機構放射性同位元素総合センター
准教授、放射線科学）

委員 馬場 護（東北大学名誉教授、放射線理工学）

作業部会は事務局を通じて、J-PARCセンター内に設置された調査チームから、検証作業の基礎となるデータの提供を受けた。

有識者会議は、J-PARCセンターから開示された資料、事故現場の確認、作業部会からの報告、個別の事項に対する回答に基づいて検討を行い、本答申を作成した。

添付書類

作業部会報告書